

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
札幌スポーツアンド メディカル専門学校	平成16年7月5日	平田 和光	〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西8丁目11-1 (電話) 011-233-3555																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	健康スポーツ科	平成19年2月文部科学省 告示第20号	-																							
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、スポーツ関連分野において活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技術を教授することを目的としている。																										
認定年月日	平成28年2月19日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時間数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	62	80	10	58	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
76人	66人	0人	15人	4人	19人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案し5段階評価にて行い、5・4・3・2を合格、1を不合格とする。																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏 季:7月22日～8月27日 ■冬 季:12月20日～1月9日 ■学年末:2月20日～3月31日		卒業・進級 条件	教育課程を修了の卒業は、所定の過程を修了し試験等に合格した者について、卒業の成績および性行を斟酌して認める。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談等を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリಂಗグループを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) フィットネスクラブ業界を主として、幼児体育・介護予防業界、サッカー等 ■就職指導内容 面接から履歴書の添削指導をします。 ■卒業生数 : 18 人 ■就職希望者数 : 18 人 ■就職者数 : 18 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	(平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>18</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>介護職員初任者研修</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>こども運動指導者検定</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	健康運動実践指導者	③	18	2	介護職員初任者研修	③	4	4	こども運動指導者検定	③	6	6	サービス接遇検定	③	20	13
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
健康運動実践指導者	③	18	2																								
介護職員初任者研修	③	4	4																								
こども運動指導者検定	③	6	6																								
サービス接遇検定	③	20	13																								
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 4% 平成29年4月1日時点において、在学者53名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者51名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 目標喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・個人面談を実施し、ここの悩みを早期に発見、解決する。 ・欠席が続く生徒については、早い段階で保護者に連絡し、協力を仰ぐ。 ・入学前に事前登校日を設け、また保護者向けには保護者説明会を実施している。																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生試験による授業料免除制度(年間5万円・10万円・20万円・30万円・50万円) ・三幸学園経済支援制度:在学中の授業料が1/4の返済不要の給付型奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.sanko.ac.jp/sapporo-sports/">http://www.sanko.ac.jp/sapporo-sports/</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

主に生徒の就職先となる業界を牽引する企業等との連携を通じて、必要な情報の把握・分析を行い、実践かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に活かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、より正確にスポーツ業界・フィットネス業界の動向や求められる人材要件を把握する為、生徒の就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を高め、幅広く連携を図ることで、業界のニーズを確実に捉え、カリキュラムや授業内容に反映する。

更には、実習先である企業に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、或いは必要とされる能力を把握する。これらの事によって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は札幌スポーツアンドメディカル専門学校と企業関係者等の役職員(以下、外部委員)から成るものとし、審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成過程は以下の通り。

I 教育課程編成の基本方針案取り纏め・課題解決に向けた意見集約

企業関係者等の外部委員より、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒアリングした上で、委員会で教育課程編成の基本方針を討議し、次年度以降の方針案を取り纏める。さらに本校の抱える課題をピックアップし、外部委員からの見識のある改善意見も集約する。

↓

II 教育課程編成の科目詳細決め

委員会構成員の中の札幌スポーツアンドメディカル専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。

↓

III 各専門委員会に設置したRS(リゾートアンドスポーツ専門学校)委員会にて教育課程編成の決定

委員会構成員の中の札幌スポーツアンドメディカル専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、各専門委員会であるRS委員会で改善の有効性を討議し、次年度以降の教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月18日現在

名前	所属	任期	種別
斉野 恵康	特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会	平成29年10月1日～平成30年9月30日	①
藤田 淳美	株式会社 ウェルネスフロンティア	平成29年10月1日～平成30年9月30日	③
早坂 達	学校法人三幸学園 札幌スポーツアンドメディカル専門学校		
鹿又 早織	学校法人三幸学園 札幌スポーツアンドメディカル専門学校		
中山 雅美	学校法人三幸学園 札幌スポーツアンドメディカル専門学校		
澤田 友紀	学校法人三幸学園 札幌スポーツアンドメディカル専門学校		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間開催数:2回 / 開催時期:10月と3月

(開催日時(実績))

【29年度】

第1回 平成29年10月5日 16:00～17:30

第2回 平成30年 3月7日 14:00～15:30

【30年度】

第1回 平成30年 8月29日 16:30～17:30

第2回 平成30年 3月頃 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ」という教科を設定し、学校施設(マシントレーニングルーム・スタジオ・プール・教室)を使用し、学生主体で地域の方々に健康サービス(パーソナルトレーニング、エアロビクス、ストレッチ、リラクゼーション等)を提供してみようか？  
なお、その際に生じる「企画」「集客」「実施」「振り返り」というプロセスに関して、スポーツ現場の方を講師としてお招きし、学生が直接アドバイスを頂きながら授業を進める事で「実践的なスキル」の習得に繋げていくことが生徒の将来へと繋がっていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実務卓越性を目指した教育課程における技能、技術の向上、業界において必要とされる知識、ならびに職業観を育むに足りる新技術、知識の習得を目指した職業実践的教育の実施を目的として、スポーツトレーナー及びスポーツインストラクターが第一線で活躍しているトレーナー業界・フィットネス業界の企業と連携し、専門的な知識を持ち、実務経験豊富な講師の下、専門施設やトレーナー現場・フィットネスクラブを活用した授業を行なう。その際、以下の点を特に考慮する。

- ①授業の内容は、企業がOJTとして行っている内容を学生用にアレンジしたものとし、即戦力として活躍するために必要な能力を高めるものとする。
- ②他科目の学習進度を把握した上で授業を展開し、知識や技術のアウトプットを繰り返し求めることを通じて学習の定着を促進する。
- ③個人及び集団として様々な顧客と関わり、自己の運動指導者としての幅を広げる。
- ④フィットネスクラブに所属する従業員が果たす社会的役割及び職務内容を理解し、実際の運動指導サービスが従業員全員の協働と責任によって進められていることを学ぶ。
- ⑤自らの指導者観や職業観、現代の社会についての考え方を深め、運動指導者となる為の自覚を持つ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業により、実際の現場で体験講習を実施させて頂き、業界理解を深めている。  
また、連携企業のスポーツクラブを終日貸切り、本校学生の為だけに実習を行って頂いた。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング理論Ⅰ・Ⅱ、トレーニング実践Ⅰ・Ⅱ、トレーニング指導実践Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーショントレーニング	株式会社ルネサンスと共同設計したシラバスを基に、理論及び、実践テクニック、さらには指導シュミレーション、対人スキルコミュニケーションを学んでいる。また、実際の店舗に出向き、職業体験実習を実施している。	株式会社ルネサンス
総合演習Ⅲ	関連する企業と連携し、学校で習得したことを活かして一般の方向けに、実際のフィットネスクラブを使用してサービスを提供する。	NPO法人 Mirriso スポーツ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修についてはトレーナー業界・フィットネス業界を中心とした現状の把握と今後の業界の変化に対応すべく、可能な限り早期な情報収集と共有に向けての研修を目的としている。研修で学んだことを即座に学生教育へ反映し、業界における最新の情報を習得できるカリキュラム編成や学習方法で即戦力として業界において活躍できる人材の育成に努めている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「世界のフィットネストrendと今後、業界が求める人材像」(連携企業:一般社団法人日本フィットネス産業協会)  
期間:平成29年8月25日、対象:全教職員  
内容:全世界での近年のフィットネス流行の紹介および、今後日本のフィットネス業界において求められる人材像の提案

研修名:「現在のフィットネス業界のtrendとマイクロスタジオ経営者としての視点」(連携企業:株式会社 Cinderella Trainers)  
期間:平成30年8月30日、対象:全教職員  
内容:日本におけるフィットネス業界の傾向および、マイクロスタジオを経営するうえでのポイント、また、健康スポーツ科の生徒が持つべき視点について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「生徒の心を掴む授業」(連携企業:株式会社アビリティトレーニング)  
期間:平成29年3月31日、対象:全教職員  
内容:近年の生徒の傾向や特徴を踏まえたうえで、授業を通してどのようにアプローチをすることが最善かを事例を挙げて頂きながら学んだ

研修名:「タイプ別コミュニケーションスキル」(連携企業:株式会社ビーコンラーニング社)  
期間:平成30年3月30日、対象:全教職員  
内容:各個人のタイプを理解したうえで、コミュニケーションの手法を変えるスキルを実践形式にて学んだ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「未定」  
期間:平成31年8月、対象:全教職員(連携企業:未定)  
内容:業界の方を招いたフィットネス業界の現状やtrend、今後の方向性についての研修を実施予定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「未定」

期間:平成31年4月2日、対象:全教職員

内容:未定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、健康スポーツ業界の企業様や卒業生・地域団体住民・保護者等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学習成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生への受け入れ募集	(7)学生への受け入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(3). 教育活動

[課題]資格取得のための指導体制について、カリキュラムの中での体系的な位置づけが不明瞭であった為、生徒の資格取得へのモチベーションを十分に高めることが出来なかった

[今後の改善方策]1. カリキュラムの刷新、2. 特に強く取得を促す資格の明確化、3. 補講等集中強化期間のバックアップ体制の見直しを行い、資格取得の為の指導体制を強化していく

(5). 学生支援

[課題]卒業生への支援が、転職を希望する卒業生に対する「再就職支援」のみに留まっている現状がある

[今後の改善方策]業界内で活躍をしている卒業生に対し、平日夜間や土日祝日等に学内での「スキルアップの為のセミナー」や「マネジメント力向上の為のセミナー」等を業界関係者と連携し実施していく

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
八田 則之	株式会社ルネサンス	平成30年4月1日～平成31年3月31日	関係業界
橋本 めぐみ	合同会社Body Renovation	平成30年4月1日～平成31年3月31日	関係業界
小林 直斗	株式会社シミズ・ビルライフケア	平成30年4月1日～平成31年3月31日	校舎管理

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

公表時期:30年7月27日

[http://www.sanko.ac.jp/sapporo-sports/pdf/kankeisyahyouka\\_sapporo.pdf](http://www.sanko.ac.jp/sapporo-sports/pdf/kankeisyahyouka_sapporo.pdf)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供している

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげる。また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択にあたっての有用な情報を提供すると共に、一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習、就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2)各学科等の教育	●三幸学園の教育 ●学科・専攻紹介 ●資格・就職
(3)教職員	●講師紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●インターンシップ ●各種ボランティア
(5)様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●特別ゼミ ●企業・地域コラボレーション
(6)学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7)学生納付金・学修支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8)学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書
(9)学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程健康スポーツ学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			身体運動の基礎科学	運動指導を行う上で、身体の構造と機能に関する知識は欠かせません。この授業では、身体運動のしくみと運動による身体の生理的変化を学習していく。	1通	70	4	○			○			○		
○			機能解剖学	ヒトの動きを考える時には解剖学的な知識が欠かせません。この授業では骨格筋、骨・関節、腱、靭帯の構造と機能について学習していく。	1通	70	4	○			○				○	
○			スポーツ栄養学	栄養学の基礎を理解し、運動指導において必要な栄養と食事を理解する。食事の大切さを知り、その大切さをアドバイス出来るようにし、自らの食生活を改善出来るようにする。	1前	34	2	○			○			○		
○			測定評価とプログラミング	運動指導を行う上で、指導対象者の現状把握は欠かせません。この授業では、主に体力要素の測定と評価について学習していく。	1後	36	2	○			○			○		
○			運動障害の予防と応急処置	運動指導を行う上で、救急処置の正しい知識と対応は必須となります。この授業では、主に救急処置について学習していく。	1通	52	3	○			○			○		
○			サービス業の基礎知識	サービスを提供する上で、相手に好印象を与えることのできる接客・接遇は欠かせません。この授業では、立ち居振る舞いや言葉づかい、お客様対応など、好印象を与えることのできる接客・接遇の理論を学習していく。	1前	17	1	○			○			○		
○			未来デザインプログラムⅠ	「7つの習慣」を基本とし、社会人として成長していく必要不可欠な基本的要素を学ぶ。	1通	35	2	○			○			○		
○			トレーニング理論Ⅰ	トレーニングを指導する上で、各種トレーニングの理論は欠かせません。この授業では、トレーニング目的に応じて合理的・効率的にトレーニングを進めていくための実践理論について学習していく。	1通	35	2	○			○			○		○
○			コーチング理論	運動指導を行う上で、相手の目標達成を支援するための技術は欠かせません。この授業では、顧客の目標達成を実現するためのかわり方について学習していく。	1後	36	2	○			○			○		
○			トレーニング実践Ⅰ	トレーニングを指導する上で、実技技能（デモンストレーション能力）は欠かせません。この授業では、ストレングストレーニングの正しい実施方法と正しいトレーニングフォームを学習していく。	1通	70	2			○	○			○		○
○			トレーニング指導実践Ⅰ	トレーニングを指導する上で、実技技能（デモンストレーション能力）と知識は欠かせません。この授業では、他者へ指導してみることで、これまでに学んだ実技技能と知識の定着を図ると共に、現状の定着状況が明らかになることにより、何が必要かを自分自身で学習していく。	1通	70	3	○			○			○		○
○			運動指導の心理学	運動指導を行う上で、行動を促したり、動機づけするための知識・技術は欠かせません。この授業では、行動への理論やモデルおよび技法について学習していく。	1後	36	2	○			○			○		

○	コミュニケーション トレーニング	顧客や職場のスタッフと良好な人間関係を築き業務を円滑に遂行するためにコミュニケーション技術は欠かせません。この授業では、コミュニケーションの本質を理解し、集団の中で効果的に議論するための技術を学習していく。	1 通	70	4	○		○	○	○
○	プレゼンテーション	コミュニケーション能力を向上させる。また、プレゼンにおけるパワーポイントの作成スキルも学習する。	1 通	35	2	○		○	○	
○	スイミング実践 I	水の特性を理解しながら、水泳の技能を高めることで、幅広い対象者へ運動指導ができるようになります。この授業では、水の特性と4泳法を学習していく。	1 後	36	1			○	○	○
○	グループエクササイズ 指導実践 I	運動指導を行う上で、集団指導を行うための知識・技術および楽しさの提供は欠かせません。この授業では集団指導を行うための知識・技術や楽しく運動するための要素である、音楽に合わせて行う指導等、グループエクササイズに必要な技術を学習していく。	1 通	106	3			○	○	○
○	サービス接遇	サービス接遇を理解し、相手に対して好印象を与える立ち居振る舞い、言葉遣いなどを理解し、実践できるようになる。	1 後	36	2	○		○		○
○	グループエクササイズ 指導実践 I (STB)	運動指導を行う上で、集団指導を行うための知識・技術および楽しさの提供は欠かせません。この授業では集団指導を行うための知識・技術や楽しく運動するための要素である、音楽に合わせて行う指導等、グループエクササイズに必要な技術を学習していく。	1 後	36	1			○	○	○
○	トレンドエクササイズ I	スポーツに関わる仕事に就く上で、ベーシックなものから現在のトレンドまで様々なエクササイズを知り、体験することは重要です。この授業では、様々なエクササイズの体験を通し、運動指導の現状を学習していく。	1 前	34	1			○	○	○
○	トレンドエクササイズ II	スポーツに関わる仕事に就く上で、ベーシックなものから現在のトレンドまで様々なエクササイズを知り、体験することは重要です。この授業では、様々なエクササイズの体験を通し、運動指導の現状を学習していく。	1 後	36	1			○	○	○
○	スポーツマネジメント I	スポーツが商品として様々な形で消費の対象となったスポーツ産業をマネジメントの観点から学ぶとともに、その産業においてスポーツを消費する人々についても学ぶ。	1 前	34	2	○		○		○
○	スポーツマネジメント II	スポーツ産業の主要な業態におけるマネジメントの基礎を学ぶとともにビジネスとしてのプロスポーツのマネジメントの特徴を学ぶ。	1 後	36	2	○		○		○
○	総合演習 I	運動指導現場では、様々な現場の状況に応じて、どのように企画立案、集客を行うことができるか、どのように知識・技術を活用し、提供することができるかが求められます。この授業では、実際に運動指導現場で活動することができるよう、仕事の進め方の基本、現場で求められる力を学習していく。	1 前	36	2			○	○	○
○	総合演習 II	運動指導施設では、専門的な知識・技能だけでなく、自ら考え行動する主体性、周りと協力しながら仕事を進める協調性・計画性、相手にわかりやすく様々なことを伝えるコミュニケーション能力などが求められます。この授業では、自分たちで研究や企画内容を決定し、それを実践していくことを通じて、運動指導施設で求められる力を身につけていく。	1 後	36	2			○	○	○
○	関連施設実習 I	「対人スキル」、「課題発見力」、「課題解決力」の3要素を身につけることを主な目的として、スポーツ現場での活動に取り組みます。	1 後	54	1			○	○	○
○	健康づくり施策と運動の 実際	生活習慣病の予防・改善に向けた運動指導の基礎知識を学ぶ。運動・身体活動評価、および効果的な運動・身体活動の質と量について理解する。また運動指導のリスク管理や生活習慣病の代表的な疾患についても理解する。	2 通	70	4	○		○		○

○		トレーニング理論Ⅱ	クイックリフト系メニューの実技習得と筋力トレーニングにおけるティーチング理論を学ぶ。	2 前	17	1	○			○			○				
○		トレーニング実践Ⅱ	クイックリフト系メニューの実技習得と筋力トレーニングにおけるティーチングができることを目指す。	2 前	34	1				○	○		○				○
○		アプリケーション演習	コンピュータの基礎知識を理解させ、タッチタイピングの習得を行い、ビジネス文書作成能力及び、表計算作成能力を習得させる。「パソコン技能検定3級」の資格取得を目指す。	2 前	34	2			○		○						○
○		未来デザインプログラムⅡ	1年次に学んだ基本的要素を実際に行動として起こせるよう、応用していく。	2 前	17	1	○				○						○
○		トレーニング指導実践Ⅱ	健康運動実践指導者資格の取得を目指した対策授業	2 通	70	3	○				○						○
○		動作分析とプログラミング	指導者として必要な体力向上をはかる。実際に体力測定も行う。	2 前	34	2	○				○						○
○		ファンクショナルトレーニング指導実践	様々なフィットネスプログラムのうち、主にショートプログラムとして実施されているグループプレッスを安全に効果的に指導し、またそのプログラムの作成方法について学ぶ。	2 通	70	2					○	○					○
○		グループエクササイズ指導実践Ⅱ	グループエクササイズⅠで学んだ基礎理論を踏まえ、次段階としてグループエクササイズ指導の実際を学び、指導体験を重ねることで指導者としての基礎を理解させる。	2 前	34	1					○	○					○
○		スイミング実践Ⅱ	4泳法を理解した上で、ジュニア世代までのスイミング指導法を身に付ける	2 前	34	1					○	○					○
○		パートナーストレッチ実践	運動指導者にとってストレッチに関する正しい知識と技能は必要不可欠です。この授業では、ストレッチ、主に、パートナーストレッチに関する正しい知識と技能を学習していく。	2 前	34	1					○	○					○
○		コアコンディショニング指導実践	運動指導をする際に、コア（体幹）へのアプローチは欠かせません。この授業では、アスリートのパフォーマンスアップ、日常生活における不調の予防や改善、美しい身体作りにつながるコアのコンディショニング法を学習していく。	2 前	34	1					○	○					○
○		機能改善エクササイズ指導実践（水中）	水中ウォーキングプログラム、アクアダンスプログラムの組み立て方と参加者に分かりやすい指導方法を学び、水に対する知識と理解を高めた技術提供が行えるようにする。	2 後	36	1					○	○					○
○		カウンセリング実践	運動指導をする上で、対象者の状態（肉体的、精神的）に応じることのできる知識・技術は欠かせません。この授業では、体組成測定結果やエネルギー収支バランスを活用したカウンセリングを学習していく。	2 後	36	2	○					○					○
○		シナプソロジー指導実践	認知機能や運動機能などを向上させるエクササイズの『シナプソロジー』を幅広い対象者へ指導できるようになるべく、脳の基礎知識や対象者に応じたエクササイズの開発・指導法を学習していく。	2 後	36	1					○	○					○
○		トレーニング実践Ⅲ	ひとりひとりの目的に合わせた、適切な指導を行うためには、自分自身の筋力を知ることと自分自身の実践経験が欠かせません。この授業では、実践を中心にストレングストレーニングの理解を深め、プログラミングとエクササイズ指導を学習していく。	2 後	72	2					○	○					○
○		エアロビクス実践	エアロビクスプログラムの指導者として、安全で効果的なプログラム作りの為の知識・技術・動作スキルを習得する。	2 通	176	5					○	○					○

○	ダンス実践 (トレンド)	DANCEのテクニックや表現力を向上させ、自分のDANCEの方向性を確認させる。知識技術の上に成り立つ応用を確立させる。	2 通	70	2				○	○								○
○	エアロビクス指導実践	エアロビクスの指導者として、安全で効果的なプログラム作りのための知識・技術・動作スキルを習得したうえで実践的な指導練習を行う。	2 通	72	2				○	○								○
○	アクアビクス実践	水の特性を体感しながら理解する。スポーツクラブなどで行われている水中エクササイズを体験し、正しく安全な動きを習得する。水中歩行のプログラムを作成し、インストラクションを行い実際にレッスンを行ってみる。	2 通	140	4				○	○								○
○	スイミング指導実践	4泳法を理解・習得し、各泳法のスキルアップができ、指導法を理解する。	2 通	70	2				○	○								○
○	アクアビクス指導実践	水中ウォーキングプログラム、アクアダンスプログラムの組み立て方と参加者に分かりやすい指導方法を学び、水に対する知識と理解を高めた技術提供が行えるようにする。	2 後	72	2				○	○								○
○	高齢者トレーニング実践	高齢者に必要な筋力向上トレーニングについて理解する。個別プログラムについて理解する。準備体操の内容を理解し、その実践力を養う。	2 通	70	2				○	○								○
○	福祉レクリエーション指導実践	福祉レクリエーションの指導、援助を知る。	2 通	70	2				○	○								○
○	社会福祉概論	現代の社会福祉における、福祉の概念や基本的な法制、各領域別の福祉制度について理解する。領域別の法制と具体的な取組みについても理解する。「福祉的視点」をもって社会を見つめ、自らの生活に引き寄せて考えられるようになる。	2 通	70	4	○				○								○
○	福祉スポーツ業界論	高齢者をターゲットとした福祉スポーツ分野に欠かせない「介護予防」について概論的な部分の根底や入り口までをしっかりと学ぶ。	2 前	34	2	○				○								○
○	高齢者トレーニング指導実践	介護予防の現場ですぐに活用できる、「健康イス体操」「健康げんき体操」「健康イス太極拳体操」「健康イス・ヨガ体操」の指導テクニックを学び、かつ習得する。	2 後	72	2				○	○								○
○	チャイルドスポーツ実践	チアダンスを経験する事と、狙いを持った集団でのダンスの理解をする。	2 通	70	2				○	○								○
○	キッズレクリエーション指導実践	幼児体育指導者として必要な運動技能及び補助法を身につける。運動種目の動きを小さく分解し、段階指導を身につける。	2 通	70	2				○	○								○
○	発育発達論	小児の発育発達について把握・理解する。	2 通	70	4	○				○								○
○	チャイルドスポーツ指導実践	チアダンスを経験する事と、狙いを持った集団でのダンスの理解をしたうえで、実践的な指導練習を行う。	2 後	72	2				○	○								○
○	キッズダンス実践	幼児期の発育発達を理解し、段階的な運動指導、子どもへの関わり方、また状況に応じた対応の仕方などを学習する。自分の理想とする体操スクールを企画し、指導案を作成し、作成した指導案を基に、模擬授業を行う。	2 後	36	1				○	○								○
○	スポーツテーピング実践	スポーツ関連施設等での就業を見据えた、必要最低限のテーピング技術を身につける。	2 通	70	2				○	○								○



○	イベントプランニング	イベントプランニングの基礎となるスポーツ産業のマネジメントについての理解を深める。	2通	70	4	○		○		○
○	スポーツマーケティングケーススタディ	スポーツ産業においてスポーツとビジネスを結び付け、スポーツの商品価値を高めるマーケティング活動を実例を通して学ぶ。	2通	70	4	○		○		○
○	スポーツプロモーション実践	量的かつ質的向上を目指した日本や世界におけるスポーツのマクロ的な普及・促進・発展からスポーツサービスとしての具体的なプロモーションについて学ぶ。	2通	70	4	○		○		○
○	モチベーション・マネジメント	マネジメントを行う上で必要なモチベーションコントロールについて学ぶ。モチベーションマネジメント検定ベーシック取得を目指す。	2前	34	2	○		○		○
○	スポーツ業界論	スポーツ産業の全体像を学び、自らの将来の目標を明確にするための指針とする。スポーツが産業の一領域であることを認知し、しっかりと基礎知識と専門知識を学ぶことで目指す仕事に就く為（就職するため）の活動に役立たせる。	2前	34	2	○		○		○
○	スポーツビジネス実践	スポーツビジネスと普通のビジネスの違いや特徴を踏まえてスポーツに関わる事業やサービスのあり方や動向、事業計画を学ぶ。	2後	54	2	○		○		○
○	コミュニティスポーツ指導実践	年齢や性別、スポーツ経験の有無などに関係なく誰でも簡単に行なうことのできるスポーツであるコミュニティスポーツについて指導方法も含めて学ぶ。	2後	72	2		○	○		○
○	関連施設実習Ⅱ	「対人スキル」、「課題発見力」、「課題解決力」の3要素を身につけることを主な目的として、スポーツ現場での活動に取り組みます。	2前	102	3		○	○		○
○	総合演習Ⅲ	運動指導施設では、専門的な知識・技能だけでなく、自ら考え行動する主体性、周りと協力しながら仕事を進める協調性・計画性、相手にわかりやすく様々なことを伝えるコミュニケーション能力などが求められます。この授業では、自分たちで研究や企画内容を決定し、それを実践していくことを通じて、運動指導施設で求められる力を身につけていく。	2通	70	4	○		○		○
合計				67科目		3688単位時間(148単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<b>【履修方法】</b> ●各科目授業内テスト（実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施）の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。 ※履修前期、後期ともある教科についての評定は原則として前期、後期の評価合計を出し、それを2で割ったものを評定とする（原則四捨五入）。 ※上記の方法で評定が「1」となった科目（成績不良科目）は履修と見なさない。 ※また欠課時数が授業時数の1/3を越えた科目（出席不良科目）も履修と見なさない。 <b>【進級・卒業要件】</b> 教育課程の修了や卒業は、所定の過程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績および品行を斟酌して認める。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	前期	17週
		後期	18週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。